

観光学部 ウェルネスツーリズム学科

履修の手引と手続き

<小 目>

I	カリキュラム・ポリシー	318
II	ディプロマ・ポリシー	318
III	授業科目について	319
IV	授業科目の単位と認定	319
V	卒業に必要な単位について	319
VI	3年次への進級条件及び各学年における標準的な修得単位	320
VII	授業科目の学年配当と履修すべき単位数	322
	1. 基礎科目群	322
	2. 専門基礎科目群	326
	3. 専門科目群	327
	4. 専門関連科目群	330
	5. Global College 科目群	331
	6. 特設科目群	334
VIII	履修申請について	336
IX	正規の履修からはずれる場合	336
X	試験について	337
XI	成績発表	338

履修の手引と手続き

I カリキュラム・ポリシー

観光学部では、教育研究上の目的に基づく観光人材を育成するため、「観光ビジネス」、「観光メディア」及び「観光まちづくり」の三つのアプローチから、以下に掲げる方針によりカリキュラム（教育課程）を編成する。

- 裾野の広い観光分野の概略を身につけるため、観光学の導入教育を配置する。また、専門教育の導入として、「観光ビジネス」、「観光メディア」、「観光まちづくり」に係わる専門知識の基礎を築く科目を配置する。
- 専門教育では、旅行業、ホテル・旅館や航空などの観光ビジネスのマネジャーや起業を目指す観光ビジネス人材、各地域の自治体や観光業に求められる広報活動・情報発信などの観光メディアに精通した人材、地域の活性化を目指した観光まちづくり人材を育成するための科目を配置する。
- 「観光ビジネス」、「観光メディア」、「観光まちづくり」におけるさまざまな課題を発見・解決し、観光の新たな価値を創り出す能力を育成するため、4年間で学ぶ観光学の理論と実践の集大成である、ゼミナール教育と各自の研究テーマに即した卒業論文・卒業研究を配置する。
- グローバルな社会人に求められる「異文化理解力」、「実践力」、「語学力」のスキルを育成するため、「キャリア形成演習」や国内外のインターンシップ・研修、英語、フランス語や中国語などの外国語科目、ホスピタリティ・マネジメント、コミュニケーション、ICTやリスクマネジメント等を培う科目を配置する。

II ディプロマ・ポリシー

観光学部は、以下に掲げる能力を有し、かつ所定の単位を修得した学生に、学士（観光学）の学位を授与する。

- ・ウェルネス（健やかな心身・地域共生・環境調和）という考え方を理解し、観光の新たな価値を考え、創り出す能力を有している。
- ・観光学やホスピタリティ・マネジメントなどの基礎的知識を有し、「観光ビジネス」、「観光メディア」、「観光まちづくり」に係る専門知識を有している。
- ・グローバル社会での「異文化理解力」、「実践力」や「語学力」を有している。
- ・人々の話しを「聞く力」を含め、高いコミュニケーション能力を有している。

Ⅲ 授業科目について

観光学部ウェルネスツーリズム学科における授業科目は、基礎科目群Ⅰ・Ⅱ，専門基礎科目群，専門科目群Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ，専門関連科目群，Global College 科目群から構成されている。

Ⅳ 授業科目の単位と認定

本学部では単位制を採用している。単位制とは、ひとつひとつの授業科目に一定の基準により定められた単位があり、履修した授業科目に対して、試験もしくはその他の方法により学習評価をしたうえで、その単位を認定する制度である。

単位の認定は、S・A・B・Cの4段階評価により行い、D・E・F・T・Zの評価は単位を認定しないものとする。

Ⅴ 卒業に必要な単位について

卒業に必要な単位数は、次の表に示すとおりである。

系列	学科	ウェルネスツーリズム学科
	最低修得単位数	
基礎科目群Ⅰ（外国語・日本語）		8
基礎科目群Ⅱ（コミュニケーション・リスクマネジメント）		8
専門基礎科目群		12
専門科目群Ⅰ（ウェルネス観光・国際観光・地域観光・観光経営）		28
専門科目群Ⅱ（キャリア形成）		12
専門科目群Ⅲ（プロジェクト・ゼミナール）		10
各科目群に指定された最低修得単位数以外に、観光学部のすべての科目群または他学部（経営情報学部，国際人文学部，福祉総合学部，メディア学部，環境社会学部）の科目から選択必修		46
計		124

※ただし，他学部の科目で履修可能な単位は20単位を上限とする。

VI 3年次への進級条件及び各学年における標準的な修得単位

3年次に進級するためには、1年次の必修科目を含め合計で36単位以上修得しなければならない。各学年における授業科目および修得単位数の目安は、次の表に示すとおりである。

また、年間の履修登録については、原則50単位未満とすること。ただし、大学が教育上適当と認める場合は、履修上限単位数を超えて履修することを認めることがある。

学年	単位数の目安
1年次	基礎科目群Ⅰ（外国語・日本語） Fundamentals of EnglishⅠ……………1科目2単位（必修） Oral FluencyⅠ……………1科目2単位（必修） 基礎科目群Ⅱ（コミュニケーション・リスクマネジメント） 観光情報アプリケーション……………1科目2単位（必修） ホスピタリティサービスⅠ……………1科目4単位（必修） リスクマネジメント……………1科目2単位（必修） 専門基礎科目群 観光概論……………1科目4単位（必修） ウェルネス概論……………1科目2単位（必修） 専門科目群Ⅱ（キャリア形成） キャリア形成演習Ⅰ……………1科目2単位（選択） 観光実務基礎……………1科目4単位（必修） 旅行業務演習……………1科目4単位（選択） 国内研修……………1科目2単位（選択） 専門科目群Ⅲ（プロジェクト・ゼミナール） 基礎演習Ⅰ……………1科目2単位（選択）
修得単位数 38単位	※指定された各科目群より修得した科目以外に6単位
2年次	専門科目群Ⅰ（ウェルネス観光・国際観光・地域観光・観光経営） ウェルネス観光Ⅰ（ヘルス・セラピー・ツーリズム）…1科目4単位（必修） 国際観光Ⅰ（国際観光概説）……………1科目4単位（必修） 国際観光特別講座……………1科目2単位（選択） 地域観光Ⅰ（地域計画概論）……………1科目4単位（必修） 観光経営Ⅰ（ホスピタリティ経営）……………1科目4単位（必修） 専門科目群Ⅱ（キャリア形成） 海外研修Ⅰ……………1科目2単位（選択） 専門科目群Ⅲ（プロジェクト・ゼミナール） キャリア形成演習Ⅱ……………1科目2単位（選択） 観光プロジェクトa……………1科目4単位（選択）
修得単位数 36単位	※指定された各科目群より修得した科目以外に10単位
3年次	専門科目群Ⅱ（キャリア形成） キャリア形成演習Ⅲ……………1科目2単位（選択） インターンシップⅠ（国内）……………1科目2単位（選択） 専門科目群Ⅲ（プロジェクト・ゼミナール） 観光ゼミナールⅠ……………1科目2単位（必修）
修得単位数 34単位	※指定された各科目群より修得した科目以外に28単位

4年次 修得単位数 16単位	専門科目群Ⅲ（プロジェクト・ゼミナール） 観光ゼミナールⅡ（卒業論文・卒業研究）……………1科目4単位（必修） ※指定された各科目群より修得した科目以外に12単位
卒業 修得単位数 124単位	

Ⅶ 授業科目の学年配当と履修すべき単位数

1. 基礎科目群

基礎科目群は、Ⅰ（外国語・日本語）、Ⅱ（コミュニケーション・リスクマネジメント）の2つの科目群からなる。それらの各科目群のうちから「Ⅴ. 卒業に必要な単位について」（P.317）に示した所定の単位以上を修得しなければならない。

(1) 基礎科目群Ⅰ（外国語・日本語）

基礎科目群Ⅰは、グローバル化時代の到来とともに、近い将来やってくるグローバル社会に向けて、英語に加えてスペイン語、フランス語、中国語、韓国語、ハンガリー語等の語学能力向上をはかる科目群である。

※単位数に○を付してある科目は必修科目

系列	授 業 科 目	年次および単位数				最低修得 単位数	備 考
		1年	2年	3年	4年		
基礎科目群Ⅰ (外国語・日本語)	Fundamentals of English I	②				8 単位	「基礎科目群Ⅰ（外国語・日本語）」の中より、必修科目を含み8単位以上選択必修。ただし第二外国語科目を履修する場合は、1か国語4単位（同一第二外国語のⅠA、ⅠB）を必修とし、必修科目を含み8単位以上選択必修。 外国人留学生・帰国生は、日本語5科目10単位を第一外国語として必修。
	Fundamentals of English II		2				
	Oral Fluency I	②					
	Oral Fluency II		2				
	English for Tourism I	2					
	English for Tourism II		2				
	English for Tourism III			2			
	TOEIC for Careers 400 I	2					
	TOEIC for Careers 400 II	2					
	TOEIC for Careers 600 I			2			
	TOEIC for Careers 600 II			2			
	日本語ⅠA	2					
	日本語ⅠB	2					
	日本語ⅡA	2					
	日本語ⅡB	2					
	日本語Ⅲ	2					
	日本語Ⅳ	2					
	観光日本語ⅠA	2					
観光日本語ⅠB	2						
日本語能力演習Ⅰ	2						

系列	授 業 科 目	年次および単位数				最低修得 単位数	備 考
		1年	2年	3年	4年		
基礎科目群Ⅰ (外国語・日本語)	日本語能力演習Ⅱ	2					
	スペイン語ⅠA	2					
	スペイン語ⅠB	2					
	スペイン語Ⅱ		2				
	スペイン語Ⅲ		2				
	フランス語ⅠA	2					
	フランス語ⅠB	2					
	フランス語Ⅱ		2				
	フランス語Ⅲ			2			
	フランス語Ⅳ			2			
	中国語ⅠA	2					
	中国語ⅠB	2					
	中国語ⅡA		2				
	中国語ⅡB		2				
	中国語Ⅲ			2			
	中国語Ⅳ			2			
	韓国語ⅠA	2					
	韓国語ⅠB	2					
	韓国語ⅡA		2				
	韓国語ⅡB		2				
	韓国語Ⅲ			2			
	韓国語Ⅳ			2			
	ハンガリー語ⅠA	2					
	ハンガリー語ⅠB	2					
	ハンガリー語ⅡA		2				
	ハンガリー語ⅡB		2				
	ハンガリー語Ⅲ			2			
	ハンガリー語Ⅳ			2			
	ポーランド語ⅠA	2					
	ポーランド語ⅠB	2					

系列	授 業 科 目	年次および単位数				最低修得 単位数	備 考
		1年	2年	3年	4年		
基礎科目群 I (外国語・日本語)	ポーランド語Ⅱ		2				
	ポーランド語Ⅲ			2			
	チェコ語Ⅰ A	2					
	チェコ語Ⅰ B	2					
	チェコ語Ⅱ		2				
	チェコ語Ⅲ			2			
	ポルトガル語Ⅰ A	2					
	ポルトガル語Ⅰ B	2					
	ポルトガル語Ⅱ		2				
	ポルトガル語Ⅲ			2			
	ドイツ語Ⅰ A	2					
	ドイツ語Ⅰ B	2					
	ドイツ語Ⅱ		2				
	ドイツ語Ⅲ			2			
	ドイツ語Ⅳ				2		
	マレー・インドネシア語Ⅰ A	2					
	マレー・インドネシア語Ⅰ B	2					
	マレー・インドネシア語Ⅱ A		2				
マレー・インドネシア語Ⅱ B		2					

〔備考〕

- (1) 基礎科目群 I では、第一外国語として英語および第二外国語を学ぶ。うち、Fundamentals of English I, Oral Fluency I は必修科目である。
- (2) Fundamentals of English II, Oral Fluency II を履修するためには、それぞれの I の単位を修得していなければならない。同様に English for Tourism II を履修するためには、その I の単位を修得していなければならない。
- (3) スペイン語、フランス語、中国語、韓国語、ハンガリー語等のそれぞれにおいて、I B を履修するためには I A を、II を履修するためには I B の単位を修得していなければならない。

(2) 基礎科目群Ⅱ（コミュニケーション・リスクマネジメント）

基礎科目群Ⅱは、新しい時代の観光情報・メディアに不可欠な情報・メディアリテラシーについて学ぶとともに、あらゆる職業領域において必要不可欠なホスピタリティサービスやリスクマネジメントを学ぶ。また、その基盤としてのコミュニケーションの基礎について学ぶ科目群である。

系列	授 業 科 目	年次および単位数				最低修得 単位数	備 考
		1年	2年	3年	4年		
基礎科目群Ⅱ (コミュニケーション・ リスクマネジメント)	観光情報アプリケーション	②				8単位	「基礎科目群Ⅱ (コミュニケーション・ リスクマネジメント)」 の中より、必修 科目を含み8単 位以上選択必 修。
	観光メディア論	2					
	観光メディア制作		2				
	Webデザイン		2				
	ホスピタリティサービスⅠ	④					
	ホスピタリティサービスⅡ			4			
	リスクマネジメント	②					

2. 専門基礎科目群

専門基礎科目群は、観光に関する基礎的知識や健やかな心身を目指したウェルネスの考え方を学ぶための科目群である。

系列	授 業 科 目	年次および単位数				最低修得 単位数	備 考
		1年	2年	3年	4年		
専門基礎科目群	観光概論	④				12単位	「専門基礎科目群」の中より、必修科目を含み12単位以上選択必修。 「世界の中の日本」は、「グローバル研修」の準備講座である。したがって、「グローバル研修」を履修するためには、「世界の中の日本」を修得していなければならない。
	ウェルネス概論	②					
	日本地誌	2					
	世界地誌		2				
	簿記		2				
	マーケティング論		2				
	広告論		2				
	観光関連法制			2			
	観光心理学		2				
	ジェンダーと観光		2				
	グローバル社会と女性		2				
	女性とダイバーシティ		4				
	女性とキャリアデザイン			2			
	日本の伝統文化		2				
	世界の中の日本 a		2				
	世界の中の日本 b		2				
	世界の中の日本 c		2				
	世界の中の日本 d		2				
	地域と大学			2			
	自校史研究（建学の精神と大学の理念）			2			
	観光文化		2				
	食文化			2			
	経営学入門		2				
経済学入門		2					
観光地理学		2					
資源と環境			2				

3. 専門科目群

専門科目群は、「専門科目群Ⅰ（ウェルネス観光・国際観光・地域観光・観光経営）」、「専門科目群Ⅱ（キャリア形成）」と「専門科目群Ⅲ（プロジェクト・ゼミナール）」の3分野からなり、テーマ別実務教育、資格取得教育、フィールド教育、プロジェクト教育、ゼミナールなどを大きな柱としている。

(1) 専門科目群Ⅰ（ウェルネス観光・国際観光・地域観光・観光経営）

専門科目群Ⅰは、ウェルネス観光、国際観光、地域観光、観光経営という観光学の4つの主要領域を学ぶ科目群である。

ウェルネス観光領域では、「ウェルネス観光Ⅰ～Ⅳ」で、ヘルス・セラピーツーリズム、ユニバーサルツーリズム、エコツーリズム、温泉観光学を学ぶ。

国際観光領域では、「国際観光Ⅰ～Ⅳ」で国際観光概説、アジア研究、米国研究、欧州研究に加え、国際観光特別講座で、ハワイ大学マノア校の海外提携大学とインターネット回線を使った遠隔授業を行う。

地域観光領域では、「地域観光Ⅰ～Ⅲ」において、地域計画概論、観光まちづくり、日本・千葉・鴨川について学ぶ。

観光経営領域では、「観光経営Ⅰ～Ⅱ」で、観光経営学のなかのホスピタリティ経営、経営管理について学ぶ。また、「観光ビジネス研究Ⅰ～Ⅳ」では、旅行業、宿泊業、エアライン、イベント・コンベンションなどの各業種の業務の詳細について学ぶ。

(2) 専門科目群Ⅱ（キャリア形成）

専門科目群Ⅱでは、「キャリア形成演習Ⅰ～Ⅲ」で授業への適応から就職活動に必要な文書法やビジネスマナーについて学び、「観光実務基礎」で地元鴨川での実務体験をし、「インターンシップⅠ（国内）・Ⅱ（海外）」の職業体験につなげる。

また、「旅行業務演習」「添乗実務演習」「サービス介助演習」「エコ・スポーツリーダー演習」等で、観光分野に必要な実務力を養い、資格を取得する。

(3) 専門科目群Ⅲ（プロジェクト・ゼミナール）

専門科目群Ⅲでは、プロジェクト教育の徹底と各専門分野の追究のために設けられた科目群である。

「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」で、テーマ学習の基礎を学ぶ。「地域プロジェクト」「観光プロジェクト a・b・c」は、地域密着型のプロジェクトに参加しつつ学ぶものであり、将来各地に根づいてまちづくりを行いたい場合に有用な科目である。

「観光ゼミナールⅠ・Ⅱ」では、それぞれの専門知識を深めつつ、自己のテーマを一貫して研究し、Ⅱでは卒業論文・卒業研究を行う。

系列	授 業 科 目	年次および単位数				最低修得 単位数	備 考
		1年	2年	3年	4年		
専門科目群Ⅰ (ウェルネス観光・国際観光・地域観光・観光経営)	ウェルネス観光Ⅰ (ヘルス・セラピーツーリズム)			④		28単位	専門科目群Ⅰ (ウェルネス観光・国際観光・地域観光・観光経営) では、必修を含めて28単位以上選択必修。
	ウェルネス観光Ⅱ (ユニバーサルツーリズム)			4			
	ウェルネス観光Ⅲ (エコツーリズム)			2			
	ウェルネス観光Ⅳ (温泉観光学)				2		
	国際観光Ⅰ (国際観光概説)			④			
	国際観光Ⅱ (アジア研究)				2		
	国際観光Ⅲ (米国研究)				2		
	国際観光Ⅳ (欧州研究)				2		
	国際観光特別講座				2		
	地域観光Ⅰ (地域計画概論)			④			
	地域観光Ⅱ (観光まちづくり)				4		
	地域観光Ⅲ (日本・千葉・鴨川)			4			
	観光経営Ⅰ (ホスピタリティ経営)			④			
	観光経営Ⅱ (経営管理)				4		
	観光ビジネス研究Ⅰ (旅行業)				4		
	観光ビジネス研究Ⅱ (宿泊業)				4		
観光ビジネス研究Ⅲ (エアライン)				4			
観光ビジネス研究Ⅳ (イベント・コンベンション)				2			

系列	授 業 科 目	年次および単位数				最低修得 単位数	備 考
		1年	2年	3年	4年		
専門科目群Ⅱ (キャリア形成)	キャリア形成演習Ⅰ	2				12単位	「専門科目群Ⅱ（キャリア形成）」の中より、必修科目を含み12単位以上選択必修。 「世界の中の日本」は、「グローバル研修」の準備講座である。したがって、「グローバル研修」を履修するためには、「世界の中の日本」を修得していなければならない。
	キャリア形成演習Ⅱ		2				
	キャリア形成演習Ⅲ			2			
	観光実務基礎	④					
	旅行業務演習	4					
	添乗実務演習	2					
	サービス介助演習		2				
	エコ・スポーツリーダー演習	2					
	国内研修	2					
	グローバル研修	2					
	海外研修Ⅰ	2					
	海外研修Ⅱ	2					
	インターンシップⅠ（国内）		2				
	インターンシップⅡ（海外）		2				
	公益事業研究		2				
観光ビジネス特別講座	2						

系列	授 業 科 目	年次および単位数				最低修得 単位数	備 考
		1年	2年	3年	4年		
専門科目群Ⅲ (プロジェクト・ゼミナール)	基礎演習Ⅰ	2				10単位	「専門科目群Ⅲ（プロジェクト・ゼミナール）」の中から必修を含み10単位以上選択必修。
	基礎演習Ⅱ	2					
	身体表現Ⅰ	1					
	身体表現Ⅱ	1					
	地域プロジェクト	2					
	観光プロジェクト a	4					
	観光プロジェクト b	4					
	観光プロジェクト c	4					
	観光ゼミナールⅠ			②			
	観光ゼミナールⅡ (卒業論文・卒業研究)				④		

4. 専門関連科目群

専門関連科目群は、グローバル社会で通用する観光人材の育成を目指し、グローバルな視点から観光の基礎的な知識を養うことを目的とした科目群である。

系 列	授 業 科 目	年次および単位数				備 考
		1年	2年	3年	4年	
専 門 関 連 科 目 群	(International Exchange Studies)					「専門関連科目群」より修得した単位は、「Global College科目群」「特設科目群」と併せて30単位を上限として、学部・学科の各科目群に振り替えることができる。
	Risk Management in Tourism	2				
	Introduction to Wellness	2				
	Introduction to Business Management	2				
	Introduction to Economics	2				
	International Tourism I (International Tourism Studies)		2			
	International Tourism II (Asia Tourism Studies)			2		
	International Tourism III (U.S.)			2		
	International Tourism IV (Europe)			2		

5. Global College 科目群

Global College 科目群には、世界で通用するグローバル人材を目指して、ビジネス、政治、異文化理解、文化、文学など幅広い教養を英語で学ぶことが出来る科目を配置している。

系 列	授 業 科 目	年次および単位数				備 考
		1年	2年	3年	4年	
Global College 科 目 群	Introduction to Japanese Literature	2				「Global College 科目群」より修得した単位は、「専門関連科目群」「特設科目群」と併せて30単位を上限として、学部・学科の各科目群に振り替えることができる。
	Japanese Literature in Translation a	2				
	Japanese Literature in Translation b	2				
	Modern American Literature	2				
	Modern Women's Literature	2				
	Modern Poetry a	2				
	Modern Poetry b	2				
	Classical Japanese Art to Modern Japanese Art		2			
	Japanese Art and Literature	2				
	Samurai Tradition in Edo Culture	2				
	Haiku in the World	2				
	Kamishibai as a Medium of Entertainment, Education, and Propaganda	2				
	Japanese Art & Museum Management		2			
	Tradition in Contemporary Japan	2				
	Theory of Acculturation: Minorities in Japan		2			
	Japan and Asia	2				
	ASEAN and Japan a	2				
	ASEAN and Japan b	2				
	ASEAN and Japan c	2				
	Europe and Japan a	2				
Europe and Japan b	2					
Europe and Japan c	2					
European Art a	2					
European Art b	2					
European Art c	2					

系列	授 業 科 目	年次および単位数				備 考
		1年	2年	3年	4年	
Global College 科目群	Cinema Studies	2				
	The Great Directors in the World I	2				
	The Great Directors in the World II	2				
	Japanese Film and Visual Art	2				
	Japan-U.S. Film Comparative Research		2			
	Introduction to French Cinema I	2				
	Introduction to French Cinema II	2				
	Film Industry in Hollywood	2				
	Reading Comics in English	2				
	Animation	2				
	Sound Design		2			
	World Civilization	2				
	Globalization and Multiculturalism	2				
	Gender and Culture	2				
	Gender and Language	2				
	Women in Asia	2				
	Modernism in Architecture	2				
	The Cityscape Worldwide	2				
	Business and Society	2				
	Global Logistics	2				
	International Finance			2		
	International Marketing			2		
	Introduction to Database Theory			2		
	Introduction to Global Management	2				
	Strategic Management		2			
	Introduction to Tourism	4				
	International Tourism Special Session		2			
	Asia Tourism Studies			2		
Methodologies of Cultural Observation: Travel and Dialogue		2				

系 列	授 業 科 目	年次および単位数				備 考
		1年	2年	3年	4年	
Global College 科目群	Introduction to Social and Environmental Studies	2				
	Ecology Policy	2				
	Environmental Issues & Technology		2			
	Introduction to Health Science		2			
	Safety of Food and Environmental Chemicals		2			
	Japanese to English Translation			2		

6. 特設科目群

本学科の専門分野の知見を深めたうえで、さらにグローバル化社会を担う人材となるために、語学実践力を養うことを目的とした科目である。

系 列	授 業 科 目	年次および単位数				備 考
		1年	2年	3年	4年	
特 設 科 目 群	Language Study Abroad					L a n g u a g e Study Abroad, Globalization and Multicultural Society, Project at Overseasより修 得した単位は、「専 門 関 連 科 目 群」 「Global College 科 目群」と併せて30単 位を限度として、学 部・学科の各科目群 に振り替えることが できる。
	English A	2				
	English B	2				
	English C	2				
	English D	2				
	English E	2				
	English F	2				
	Chinese A	2				
	Chinese B	2				
	Chinese C	2				
	Korean A	2				
	Korean B	2				
	Korean C	2				
	Hungarian A	2				
	Hungarian B	2				
	Hungarian C	2				
	Globalization and Multicultural Society					
	Culture and Society A		2			
	Culture and Society B		2			
	Business and Society		2			
	Project at Overseas					
	Communication Project A		2			
	Communication Project B		2			
Communication Project C		2				
Regional Community Participation Project A		2				
Regional Community Participation Project B		2				
Regional Community Participation Project C		2				

系 列	授 業 科 目	年次および単位数				備 考
		1 年	2 年	3 年	4 年	
特 設 科 目 群	Japanese Language and Culture					<p>「Japanese Language and Culture」は、英語を母国語とする外国人留学生および英語圏外国人留学生を対象とした科目である。修得した単位は、「リベラルアーツ&サイエンス科目群」と併せて30単位を上限として、学部・学科の各科目群に振り替えることができる。</p> <p>「Basic Japanese a・b・c・d」 「Intermediate Japanese a・b・c・d」 「Advanced Japanese a・b」 「JLPT course a・b」 「Japanese Project a・b」は、日本語プレスマントテストの結果によりクラス指定を受けて履修すること。</p> <p>その他の科目については、オリエンテーションを受けたうえで履修すること。</p>
	Basic Japanese a	4				
	Basic Japanese b	4				
	Basic Japanese c	4				
	Basic Japanese d	4				
	Intermediate Japanese a	4				
	Intermediate Japanese b	4				
	Intermediate Japanese c	4				
	Intermediate Japanese d	4				
	Advanced Japanese a			4		
	Advanced Japanese b			4		
	JLPT course a			4		
	JLPT course b			4		
	Japanese Project a			2		
	Japanese Project b			2		
	日本文化 a	2				
日本文化 b	2					
日本社会 a	2					
日本社会 b	2					

VIII 履修申請について

各年次において履修しようとする授業科目は、毎学期の初めの指定された期日に、所定の方法（オリエンテーションで説明する）で履修申請をしなければならない。履修申請は、年間の受講計画をたて、単位を取得する意思表示をする学期初めの重要な手続きである。この履修申請手続きを間違えたために、授業科目の履修ができなくなり、その結果、進級はもとより卒業ができなくなる場合もあるので、以下に掲げる注意事項を厳守して、誤りの無いように履修申請をすること。

- (1) 履修授業科目および担当教員などの変更，追加，取消しなどが無いよう，入力する前に授業時間割表に則してもう一度確認するなど，細心の注意を払うこと。なお，履修照合期間が設けられているので間違いなく登録されているかどうかを必ず確認すること。
- (2) 履修申請をしていない授業科目は，受講しても単位は認められない。また修得した単位は分割することはできない。よって，授業科目の申請にあたっては進級や卒業に必要な単位の算定を慎重に行い，修得単位数が不足しないように万全を期すこと。
- (3) 同一学期の同一時限に2つ以上の授業科目を履修することはできない。
- (4) 一度単位を修得した授業科目は，再度履修することはできない。
- (5) Web履修では，授業科目，コマ・コード番号など必要事項を正しく入力すること。入力上の誤りは申請自体が無効になるので十分注意すること。また，入力の際，PCの前で長時間考えているとタイムアウトになる可能性があるため，登録する講義や時間割の下書きを準備してから入力すること。なお，大学内に設置されているPCの台数は限られているので，Web履修のために長時間占有しないこと。
- (6) コマ・コード番号とは，時間割表に授業科目と共に記載されている番号で，その時限の授業科目に固有の番号である。
- (7) 指定された期日までに履修申請を怠った場合は，学業の意思なしとみなされて，退学処分となるので入力期限を厳守すること。
- (8) 副専攻や留学等，履修についての質問は，それぞれのアドバイザーもしくは，学部事務室に相談すること。

IX 正規の履修からはずれる場合

1. 再履修

履修申請をして単位が取得できなかった授業科目については，次年度または次学期において再び履修することができる。

2. 規定外履修

該当するクラスの授業時間以外のクラスで受講せざるを得ない場合は，アドバイザーと相談の上，必ず学部事務室に申し出ること。ただし1年次生の規定外履修は原則として認めない。

X 試験について

1. 定期試験および臨時試験

- (1) 試験は、定期試験と臨時試験があり、定期試験は原則として学期末または学年末に行い、臨時試験は担当教員の判断により適宜行われる。
- (2) いずれの授業科目も授業時数の1/3以上欠席した場合には、原則として当該授業科目の受験資格を失う。ただし、病気または正当な理由により長期欠席の場合には、特別に配慮されることがある。
- (3) 試験の時間割は掲示により連絡する。
- (4) 授業科目によって論文（レポート）提出によって試験に代える場合がある。

2. 追 試 験

- (1) 追試験は、やむを得ない事情によって定期試験を受験できなかった者に対し、原則として学期末または学年末に実施する。
- (2) 追試験を希望する者は、正当な事由を証明する書面をもって速やかに授業担当教員に届け出ること。
- (3) 追試験は、成績表の当該科目に「T」の表示がなされた場合に限り受験することができる。
なお、追試験は、履修（再履修を含む）した年度に限り受験することができる。
- (4) 追試験を受験しようとする者は、「追試験受験願」を学部事務室に提出しなければならない。

なお、追試験の受験料は、1科目につき200円である。

3. 再 試 験

- (1) 再試験は、原則として学期末または学年末に実施する。ただし、授業科目によっては再試験を行わない場合もある。
- (2) 定期試験の結果、不合格（この場合成績表の当該科目に「F」の表示がなされる）となった授業科目のある者は、当該授業科目の担当教員が再試験を行なう場合、受験することができる。
なお、再試験は、履修（再履修を含む）した年度に限り受験することができる。
- (3) 再試験の受験を許可された者は、「再試験受験願」を学部事務室に提出しなければならない。

なお、再試験の受験料は、1科目につき1,000円である。

4. 試験に関する注意

1. 通 則

- (1) 試験場内では、すべて監督者の指示に従わなければならない。なお、監督者の指示に従わない者には、退場を命ずることがある。
- (2) 試験場内では、筆記用具・持込みを許された資料以外のものは、すべて監督者の指定

する場所におかなければならない。

- (3) 受験者は学生証および受験許可証（追・再試験の場合）を、机の上の見やすい場所に提示しておかなければならない。
- (4) 試験開始から20分を経過した後は入室・受験を認めない。
- (5) 試験開始から25分を経過するまでは退場を認めない。なお、監督者が退場を命ずる場合はこの限りでない。
- (6) 受験者は、試験中監督者の許可を得ないで試験場を出てはならない。
- (7) 試験の行われる学期の授業料未納の者・授業時数の1/3以上欠席した者は、試験を受けることができない。
- (8) 病気・事故その他正当な事由によって受験できなかった者は、診断書・事故証明その他正当な事由を証明する書面を添えて、遅滞なく授業担当教員に届出なければならない。

2. 試験における不正行為の懲戒について

- (1) 不正行為をした者については、学則第68条により罰せられ、更に年度における当該授業科目の単位の認定を行なわない。
- (2) 不正行為のあった者の懲戒処分については、教授会において審議のうえ決定する。
- (3) 教授会の決定により処分が確定したときは、学長はその旨保証人を召喚して通知すると共に学内にこれを公示する。

3. 試験における不正行為とは

- (1) 他の人から答えを教わることや、教えること等、いわゆるカンニング及びその手助けをすること。
- (2) 本人以外の名前・受験番号で受験すること。
- (3) 許可されていないものを使用すること。
- (4) 「解答はじめ」の前、及び「解答おわり」の後に、試験監督の指示に従わず、解答を続けること。
- (5) その他、試験監督の指示に従わないこと。
- (6) 論文・レポート等において、剽窃行為をすること。

※剽窃行為…引用の形式をとらず、著作権者に無断で著作物を複製・転載する行為。

学術上のルール・モラルに反する行為であり、著作権法に違反する行為。

XI 成績発表

- (1) 成績発表は、アドバイザーより本人に成績表を交付するので、学部事務室の指示に従って必ず交付を受けること。その際、学生証を提示すること。
なお、指定された期日以外には交付しない。
- (2) 成績の評価は次の記号で表わし、60点以上をもって単位修得（合格）とする。

(合格)	(正規試験不合格)	(追・再試験不合格)
S：100～90点	F：59点以下（再試験受験可）	D：59点以下
A：89～80点	T：追試験受験可	E：未受験
B：79～70点	Z：追・再試験の受験資格なし	
C：69～60点	評価不能	

(3) 成績表には、学習成果を総合的に推し量る指標 GPA (Grade Point Average) を表記している。

詳細については、Web 履修登録画面にて確認すること。

(4) 成績についての疑問、質問等は成績表交付日のみ受け付けるので学部事務室に問い合わせること。

(5) 事故、病気等により指定日に成績表の交付を受けられない場合は、代理人を定め、成績表の交付を受けること。その場合は学生証および委任状を持参すること。

